

県政150周年を契機とした岩手の特色に親しむコンテンツ

令和6年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージ I】採択課題

課題名 : 県政150周年を契機とした岩手の特色に親しむコンテンツの開発
研究代表者 : ソフトウェア情報学部 Prima Oky Dicky Ardiansyah
課題提案者 : 岩手県 ふるさと振興部 (熊谷 泰樹)
研究メンバー : 村上郁子 (岩手県 ふるさと振興部)
技術キーワード : 観光アプリ, ご当地キャラクター, 観光スポット

▼研究の概要 (背景・目標)

岩手県政150周年を契機として、地域の魅力を広く発信し、特に若年層に親しみやすく伝えることが求められている。従来の情報発信は文字や写真が中心であり、受け手の興味を十分に引き出すには限界があった。そこで本研究では、「楽しみながら学べる」体験型のWebアプリを開発し、ご当地キャラクターや観光スポット情報を活用して、遊びを通じた学びと地域理解の促進を目指した。

▼研究の内容 (方法・経過)

- キャラクター紹介機能：地域ごとのキャラクターについて、特徴や性格を紹介し、3Dオブジェクトとして自由に回転・拡大縮小できるインターフェースを実装した。さらに詳細情報へのリンクを掲載し、理解を深められるようにした。
- 自撮り機能：ユーザーがキャラクターと一緒に写真を撮影できる機能を実装し、親近感や参加意識を高めた。
- 観光スポット検索機能：カテゴリ検索：自然・歴史文化・温泉リゾート・アクティビティといったジャンルや、県北から県南に分類した地域カテゴリを用意し、興味に応じた観光地探索を可能にした。地図検索：GPSによる現在地周辺の観光スポットを地図上に表示し、ルート案内やスポット情報をポップアップ表示できるようにした。

▼研究の成果 (結論・考察)

本研究で開発したシステムにより、ユーザーはキャラクターや地図検索を通じて能動的に地域情報へアクセスできるようになった。3Dキャラクターの操作や自撮り機能は、地域への親近感や参加意欲を高める効果を期待できた。カテゴリ検索と地図検索を組み合わせることで、興味や状況に応じた柔軟な観光情報の取得が可能となり、観光行動の支援につながることも期待できる。さらに、本システムは「楽しさ」と「学び」を両立させ、地域理解や観光意欲の向上に貢献する可能性が示された点に意義がある。教育的観点からも、地域資源を学習教材として活用できる可能性が示唆される。

▼おわりに (まとめ・今後の展開)

今後は、実際の利用者を対象とした評価実験を行い、学習効果や観光振興への具体的な効果を検証する必要がある。さらに、AR技術の導入やコンテンツの拡充、自治体や観光施策との連携、持続可能な運用体制の構築が課題として挙げられる。これらを発展させることで、地域振興と教育を両立する新しい情報発信のモデルとして確立していくことを目指す。



(a) ご当地キャラクター



(b) カテゴリ別から観光スポットの検索



(c) 地図から観光スポットの検索

図：本研究で作成したアプリとそのコンテンツの一例